

1 ディケンズ・フェロウシップ日本支部秋季大会報告

第1部 総会

i 小池滋支部長挨拶ii 会計報告 1997年度会計報告
(1996.10 - 1997.9)

収入

前年度繰越金	2,802,356	1997年度寄付者御芳名	
会費	847,000	間二郎様	3,000
特別維持費	218,000	神戸大学様	15,000
預金利子	552	東京女子大学様	200,000
計	3,867,908... (1)	計	218,000

支出

ロンドン本部へ	237,910
会報 (20号) 印刷費	267,800
十月総会補助	44,600
通信・郵送費	337,125
印刷費	13,668
文具・雑費	21,847
計	902,950... (2)

次年度への繰越金 = (1) - (2)
= 2,964,958 円

来年度の会費を 6千円のまま据え置くことが承認された。

iii 事業報告

青木健理事より第20号の会報(同封)について、数箇所の印刷ミスのお詫び、原稿執筆には希望冊数を差し上げること、会員各位の業績報告のお願い、投稿歓迎などの連絡があった。

iv 来年度の行事について

* 1998年度春季大会

日時：1998年6月6日(土)午後2時から

場所：山形大学(幹事：中村隆氏)

プログラム：シンポジウムと研究発表を中心に作成中

* 1998年度秋季大会

日時：1998年10月3日(土)午後2時から

場所：未定

プログラム：京都ブリティッシュ・カウンシルとダラム大学の協賛行事で来日される Andrew Sanders 氏(現在ダラム大学教授)の講演を予定。

サンダース教授の来日日程に合わせ、日時だけを上記の通りに決定した。サンダース教授の講演を希望される大学・短大・研究機関があれば、佐々木徹氏（京都大学）までご連絡下さい。また当日究発表を希望される方は小池支部長まで申し出て下さい。

第2部 研究発表

司会 久田晴則氏（愛知教育大学）

発表 小野章氏（信州大学）

「『リトル・ドリット』における束縛と、『リトル・ドリット』の解放」

（プログラムにあったタイトルから変更）

（フーコーの理論や浅田彰理論を使ってディケンズが描いた社会を大胆に分析した発表だった。司会者の要を得た導入があり、質疑応答も活発に交わされた。発表内容の要旨は次回の会報に掲載される。）

第3部 講演と朗読

司会 植木研介氏（広島大学）

講師 Malcolm Andrews 氏（ケント大学教授）

講演 "Charles Dickens and His Performing Selves: Dickens the Actor as Novelist and Public Reader"

（小説家であり役者だったディケンズ、紳士でありサブカルチャーにも興味があったディケンズに焦点を当て、ディケンズの多重人格性というべきものを浮き上がらせた講演だった。要旨は次回の会報に掲載される。引き続き行われた朗読は『ドンビー父子』から決定的なシーンがいくつか選ばれ、何人もの声を見事に使い分けた迫真の「演技」に一同感動した。）

II 懇親会

プログラム終了後、雨天の中を東京女子大学のご厚意のマイクロバスで吉祥寺の「摩天楼」へ移動し、講師のアンドリューズ先生を囲んで歓談した。

おかげさまで本年度の秋季大会もまた盛会でした。大会参加者は約 60 名、懇親会参加者は約 40 名でした。成蹟大学と労を取って下さった関係者の方々に心からお礼申し上げます。

最後になりましたが、新年度（98年度）の会費を同封の振り込み用紙にてお送り下さい。ロンドン本部への *Dickensian* 購入申込の関係から、今年中に振り込んで下さると助かります。よろしくお願いします。ではまたお目にかかる日を楽しみに、みなさま、どうぞお元気でお過ごし下さい。

【追記】 振込用紙の住所欄には来年2月以降の郵便番号（7桁）をご記入下さい。尚当事務局の新郵便番号は 167-8585 となります。